

# 市民ネット通信

第 4 号

プルサーマルを考える

柏崎刈羽市民ネットワーク

<http://www.kisnet.or.jp/hanyu>

事務所 柏崎市向陽町 1279-215

Tel & Fax 0257-32-8818

発行日 2001年8月30日

## 刈羽村住民投票でプルサーマルにノー

5月27日、刈羽村住民投票はプルサーマル導入に反対多数という歴史的な判断を下しました。

2000年11月ラピカ疑惑のなかで行なわれた村長選挙では推進派の品田村長が当選したものの、議会の選挙ではプルサーマル反対議員の大幅な増加となり、12月に議員提案によりプルサーマル導入に関する住民投票条例案が可決されるという画期的な状況となりました。この、条例案は村長の再議決定により、議会で3分の2の賛成を得られず、廃案となりましたが、私たちの声を村政に届ける会の主導により住民投票を求める直接請求署名が行なわれ、刈羽村でもこれまでにはなかったような激しいシメツケの中で3分の1の署名を集め、再び議会に住民投票条例案が提案、可決されました。そして、住民投票を求める村民の声に押され、大方の予想を覆して品田村長が住民投票実施の決定を下しました。原発の所在地で初となる刈羽村の住民投票は、刈羽村の人々の努力を中心に、全県、全国からの支援を受け、私たち市民



開票風景

ネットも医師歯科医師の会と共に、チラシの発行、個別訪問によるチラシ配布、ミニ集会への講師派遣など、可能な支援を行い、この歴史的決断に参加することができました。今回の住民の判断は、日本のプルトニウム政策を根底から問うものとなり、国や東電に大きな衝撃を与えました。そして、ついに市村県の三者は“住民の了解が得られるまでプルサーマルは実施できない”との結論を出しました。

## 住民抜きの西川市長発言一来夏実施へ努力と

この住民投票の結果が不愉快で否定したい国と東電は、住民投票直後から、“今後も理解を求める”と繰り返し、住民投票の結果があたかも住民の無理解からくるものであるような宣伝を繰り返しています。しかし、私達柏崎刈羽の住民は、プルサーマルという言葉さえ知らない東京都民に比べたら、はるかにプルサーマルの危険性を知り、自分の肌でその危険性や国、東電の宣伝に“ウソ”を感じているからこそ反対票を投じたのです。プルサーマル中止をどうしても受け入れられない国や東電は、その事を敢えて無視しようとしているのです。すでに戸別訪問を始めていますが、今後、様々な手段で今回の住民投票の結果をなし崩しにする方策を考えてくるでしょう。その流れの中で、国や東電の意向を汲んだのかどうか知りませんが、西川市長は突然“来年夏の実施を目指すべきだ”などと住民の気持ちを真っ向から否定する発言をはじめました。もはや、この市長には、住民の気持ちを汲み取る感性というものが枯渇してしまったのでしょうか。繰り返しになりますが、沈黙していたら住民投票の結果はいつなし崩しにされるか判りません。プルサーマルをここまで追い詰めて、いよいよこれからが正念場です。しかし正義は私達にあります。危険なプルサーマルをやめさせ、新しい柏崎、刈羽を築くため、あと一息皆さんと共に頑張ります。

# プルサーマル凍結署名終了

市内外から  
32,773 名分

## 柏崎市でも示されたプルサーマル NO の声

MOX燃料の輸送船がフランスを出港したころ、柏崎での住民投票は現状では無理と考え、プルサーマル凍結署名をすることを“実現する会”で決定した。刈羽と連動して2月9日より署名活動を開始。街頭署名や意見広告を出しながら署名活動を展開しました。日中勤務している人は、休日や夜、署名をお願いして回り、医院では待合室に署名簿を置く、いろいろな方法で署名活動を展開した。戸別訪問、駅、バス停、スーパーなどでも呼びかける。高校生や大学生ら若い人々もよく話を聞いてくれた。

全国からは、地球環境、反原発、食と健康、防災、女性等々様々な団体や家族、親類、個人単位での署名に協力があり、郵便や電子メールが届いた。私達は、励まされ、礼状や報告、資料、切抜きを送りながら元気をもらい、感謝しながら頑張る事ができた。2月福島県知事のプルサーマル凍結宣言で一時樂觀ムードが流れ互いに引き締め合った。今回の署名は刈羽が全国的に注目される中、私達も刈羽の応援をしながら、地味な運動展開だった。署名集めに新しく加わった人、カンパを下さった人、危険なプルサーマルへの理解は、東海臨界事故後、急速に増え、真剣にプルサーマルやMOX燃料について尋ねる人も居た。

3月24日MOX燃料を積んだ輸送船が夜明けと共に姿を現し、米山や市街地の景色と並んだ時、抗議集会は最高潮。私たちは、プルサーマルの凍結がなるまでと、決意を新たにしました。

## 東電、市、村、県、国に凍結を要請

署名の最終集計、柏崎市内 19,197 名 全国 13,576 名 合計 32,773 名

5月9日柏崎市長へこの署名を持参し、プルサーマル凍結を申し入れた。市長は運動に敬意を表しながらも、柏崎の先行導入なしとし、発言は慎重。ついで東電、議長に申し入れる。県知事と東電社長へ文書で申し入れた。5月27日、多くの困難に打ち勝ち、全国から支援、注目された刈羽の住民投票は、プルサーマル反対多数で大勝利した。プルサーマルは見送られ、国や東電は住民が了解するまで理解活動を推し進めると断言。私たちのプルサーマル凍結への市民運動は、新たな局面を迎える事になる。



## 実現する会のチラシに市議会議長から抗議！

### 住民主権にそぐわない行動では？

署名活動の開始にあたり、実現する会は市内全戸に署名活動への協力を求めるチラシの折り込みを行いませんでした。このチラシの中で、柏崎市議会で可決された“MOX燃料データの公開を求める意見書”の一部を紹介し、その意見書に賛否の票を投じた議員名を公表しました。ところが、このチラシについて、戸田議長（当時）から謝罪（ないし弁明？）を求められ、途中で“話し合い”と変更されましたが、市庁舎での面会を求められたため、3月5日、桑山代表ら数名で市議会に赴きました。出席した戸田議長（当時）、桜井副議長（当時）の主張は、実現する会がチラシの中で、個別に議員の名前を挙げたことで、「プルサーマル凍結の論調の中で利用されている」とする内容でした。これに対して、実現する会は、チラシは議会で採択された意見書をそのまま一部引用したもので、お二人が言うように、桜井議員がネットの主張に同調しているかの誤解は起こりえないと話しました。（ちなみに桜井議員はこの意見書に賛成しております。）また、仮にも議員たるものが賛成票を投じた以上、その意見書が公表されることに異議を唱える筋合いのものではないと説明して参りましたが、結局話は平行線のままかみ合いませんでした。私たちとしては、住民主権という今の世の中で市民としては複雑な思いで帰途につきました。皆さんは、どう思われますか？



理不尽な“抗議”に抗議する桑山代表

# チェルノブイリ 15 周年 講演会開催

## 先天性障害の現状を学ぶ

あのチェルノブイリ事故から 15 年目を迎え、5 月 19 日講演会を開催しました。チェルノブイリで医療活動を行っている広島大学名誉教授佐藤幸男先生と、臨床検査技師の斎藤千秋さんを迎え、現地の胎児性障害の状況について話を伺いました。予期せぬ事でしたが、丁度刈羽村の住民投票一週間前という時期の開催となりましたが、刈羽村の女性にも参加頂き、新潟市のグループからハンカチの贈呈があり、また、一部の参加者は講演会后、刈羽村のミニ集会に出向くなど、刈羽村の住民投票と一体となった講演となりました。講演では、佐藤先生から現地での



刈羽にハンカチ贈呈

先天性障害の増加が報告され、樋口さんからは現地での医療支援活動の姿が多数のスライドを交えて報告されました。懇親会では、心疾患など、様々な疾患が増加しているのではないかとというような話も聞かせて頂き、改めて、チェルノブイリ事故のすさまじさを再認識した講演会でした。



### ●●●●● 市民ネット～今後の活動 ●●●●●

刈羽村住民投票での決定的な勝利にもかかわらず、残念ながら、これが最終的なプルサーマル中止とイコールではなく、行政や東電はますます攻勢をかけてくる事が予想されます。この原稿を書いている中、市長の来夏実施を発言が飛び込んできました。東京電力は広報活動の大幅増強を行い、テレビや新聞広告を通じて以前にも増して激しい工作をかけてきています。国も経済産業省の担当者を常駐させるという話もあります。商工会議所をはじめとする地元推進団体は中央に出向いてプルサーマル推進をお願いして回っています。しかし、これらの行動でプルサーマルの安全性が向上するわけではありません。彼らの言う“理解”とは内容を理解して正しい判断をすることではなく、危険なものを言いくるめて無理やり柏崎刈羽に押し付けさせるということではありません。

そこで、今後の市民ネットの活動を次のように考えています。

- I プルサーマル中止を求める行動を、これまでどおり貫きます。  
気を緩めるとまたいつ強行されるかわかりません。今後もプルサーマル中止を目指し活動します。
- II 少人数の勉強会を開いていきます。  
「市民ネットミニ集会～反プルサーマル、脱原発、新しいエネルギー先端都市として」  
プルサーマルについて知りたいという方、ぜひ御一報ください。私たちは東京電力に比べてとてつもなく小さな力ですが、真実と正義だけは味方しています。皆さんの仲間数名でも、何かの会合でも、講師を派遣して、プルサーマルの問題についてお話させていただきます。
- III メールマガジンを発刊します。  
小泉首相のメルマガに対抗するわけではありませんが、国の内外からの情報をいち早くお知らせするため、市民ネット版メールマガジンを発刊します。ご希望の方は、[hayato@kisnet.or.jp](mailto:hayato@kisnet.or.jp) まで“市民ネットのメールマガジン希望”と Eメールで申し込んでください。(当然ですが無料)
- IV 資金的基盤の強化のため、賛助会員制度を始めます。  
私たちの活動を支えて頂くために、賛助会員という形で年間 1000 円の会費を払ってくださる方を募集いたします。市民ネットの活動強化のためにご協力をお願い申し上げます。
- V 市民ネット通信の発行を続けます。  
今回は、いささか発行が遅れましたが、アップテンポな情報をお送りするため、定期的な発行を目指します。また、通信をお知り合いの方に配布して頂ける方、ご一報ください。
- VI スタッフ募集！一緒に活動しませんか。  
気軽に会合にご参加ください。(時間等はお問い合わせください) 新しい柏崎を市民の手で作ろうという方、プルサーマルに関心をお持ちの方、いっしょに活動しませんか。

# 北岡はやと 議会だより

私の議員活動は、多くの皆様のご支援と共に3年目を迎えています。市民の皆様の新鮮な声を市政に届けたいと夢中で活動しています。

議会では毎回原発関係を中心に教育、福祉など幅広く一般質問を行い、原子力の国内外の情報収集や新エネルギーの情報を市当局や議員の方々に提供しています。

刈羽村プルサーマル住民投票の前に、資源エネルギー庁長官や東電社長と議会の会合がありました。長官に「住民の反対理由を良く理解し、住民投票の結果を尊重するよう」要請、社長には「プルサーマル中止とMX燃料の情報公開を」要望しました。

7月23日、政府のプルサーマル連絡協議会幹事会に、議会の反対代表として出席。「核燃料サイクルの問題点や住民が反対している理由など」、理解不足の国策当事者に強く訴えました。なお、議会の決議では「プルサーマル計画の延期を求める意見書」や「プルトニウム利用政策の見直しを求める意見書」には賛成しました（議会は否決）。また、桜井議員ら提案による「住民投票の位置づけを考慮した地方自治法の改正を求める意見書」には反対しました（議会は可決）。これは、住民投票の実施を制限し、住民が意思表示する権利を奪いかねないものでした。

(<http://www.kisnet.or.jp/hayato/k.htm>にて議員活動の報告中)

## ——— 最近の議会での一般質問の内容 ———

2000-6月 MX燃料問題、防災、広報のあり方、代替エネルギーに支援を

2000-9月 原発の停止と危険なプルサーマル計画の撤回を

2000-12月 プルサーマル計画について（市民意向の確認を、MX燃料疑惑、海上輸送問題）、柏崎の発展と原発財源（原発依存からの脱却を）

2001-2月 プルサーマル計画について 凍結署名活動、刈羽村住民投票、福島MX燃料差止裁判、海上輸送問題、MX燃料疑惑

2001-6月 “理解”強要について、凍結署名結果について、原発震災への対応

\*\*\*\*\*

その他、教育（高校整備・不登校や引きこもり・いじめ・学習障害等・市民大学・パソコン）市長の政治姿勢・拉致問題・大学支援・地域情報化・巡回バス、介護問題等に発言。議会では原子力にとどまることなく、市民の声を第一に聞いて、市政全般に市民が参加できることをめざしています。

## ——— 編集後記 ———

はじめに、ネット通信第4号発行の大幅な遅れをお詫びいたします。忙しかったという事でお許し下さい。

さて、刈羽村の住民投票はプルサーマルをストップさせるために決定的な勝利となりました。しかし、国や東電は相変わらず“理解を求める”の一点張りです。一体村民の気持ちを何と考えているのでしょうか。といいたいところですが、石原東京都知事の発言を引き合いに出すまでもなく、消費地東京都にとって、新潟の小さな村が東京都民の安逸な生活のキーを握っている事が腹立たしいのかもしれませんが。それにしても、直ちに東京へ行ってプルサーマルの推進を訴えてくる商工会議所って一体何のために存在するのでしょうか？

もうひとつ、三者会談の舌の根も乾かないうちに、来年の実施を主張するわが市長の発言には、本当にがっかりさせられます。

市民ネットに夏休みも休日も、もらえそうにありません。



# 市民ネットの日記

2000/4 パンフレット「疑惑のMX燃料」（市民ネット編集）発行  
全面公開されない東電MX燃料のデータの疑惑、データ捏造の可能性を指摘。新エネルギーにも言及。

2000/5/11 刈羽村民がラピカ茶道館工事で住民監査請求

2000/5/30 市民ネット、アンケートの結果発表

“臨界事故でプルサーマル関心高まる”

<<http://www.kisnet.or.jp/~hanyu/ENQ/enqu0.htm>>

2000/7/28 「21世紀の新しい柏崎を考える会」発足。市長擁立を視野に

2000/11/19 市長選投票。村山氏善戦及ばず（新しい柏崎を創る市民ネットワーク）得票数16082票。刈羽は品田村長。

2000/12/26 刈羽村議会住民投票条例案可決。

2001/1/5 刈羽村長、住民投票条例案再議を決定し、議会の再議で否決。

2001/1/19 MX燃料フランス港出港。世界各国の反対。

フランスの輸送反対集会に市民ネットから賛同声明を送付

2001/1/27 刈羽村で私たちの声を市政に届ける会、住民投票を求める署名開始。法定数を大幅に上回る署名。

2001/2/9 住民投票を実現する会でプルサーマル凍結を求める署名開始を決定。4/30まで。署名数 32773（市内19197、全国13576）

市民ネットのチラシについて議長から話合いの要請。話合いは平行線。

2001/2/26 福島県知事、プルサーマル延期を表明。市長、知事は先行に否定的発言。

2001/3/2 刈羽村、住民投票請求の署名提出。

2001/3/17 プルサーマル凍結を求める新潟大集会

2001/3/24 MX燃料輸送船入港到着。高浜で早朝の抗議集会

2001/3/26 議会プルサーマル延期意見書否決

2001/4/18 刈羽村議会プルサーマル住民投票条例を再度可決

2001/4/24 刈羽村品田村長、住民投票実施を決定。

(5/17 公示 5/27 投票)

柏崎住民投票を実現する会、プルサーマル凍結を求める署名を受け、柏崎市長、議長、東電へ申し入れ、新潟県知事、東電社長へ申し入れ書を郵送。

2001/5/19 講演会 チェルノブイリ核被災の医療調査、交流から学ぶ。この間、刈羽村の住民投票運動を支援。刈羽のミニ集会に応援参加、医師歯科医師の会チラシを発行。ネットも配布、戸別訪問など。

2001/5/27 刈羽村住民投票で

反対派勝利！

反対 1925 票 (53.4%)

賛成 1533 票

保留 131

プルサーマル NO の判断



2001/6/1 三者（村長、市長、知事）会談で、今夏プルサーマル見送り決定。

2001/7/17 再度三者会談。村民の了解まで見送りを決定。

2001/7/23 政府のプルサーマル連絡協議会幹事会で市、村の賛否両派が発言。柏崎の反対は代表で北岡市議が発言。（賛成派は桜井市議）

2001/8/6 西川市長、来夏実施へ努力をと発言。

資料：<<http://www.kisnet.or.jp/~hanyu/ki roku.htm>>